

平成 30 年度自己評価の結果について

社会福祉法人秀峰会
つくし保育園 上大岡

1. 平成 31 年度の目標

- ①特別な支援や配慮が必要な子どもの保育について知識・共有・関連施設との連携を深める
- ②保育計画や指導計画の充実
- ③環境保育の学びと実践
- ④職員の協働の理解と行動

2. 自己評価の集計結果

つくし保育園上大岡における自己評価の結果をご報告致します。
今後の保育の質の向上に努めて参ります。

分野	回答	イ	ロ	ハ	計	
		よく出来ている	ほぼ出来ている	努力が必要		
1.	保育の理念・保育観	43.0%	48.9%	8.2%	100.0%	
2.	1) 保育計画・指導計画	22.2%	55.6%	22.2%	100.0%	
	2) 乳児保育	49.0%	38.8%	12.2%	100.0%	
	3) 3歳未満児保育 (1・2歳児保育)	34.4%	59.5%	6.1%	100.0%	
	4) 3歳以上児保育	ア. 基礎的事項	31.5%	56.2%	12.4%	100.0%
		イ. 健康	30.2%	53.5%	16.4%	100.0%
		ウ. 人間関係	17.8%	64.4%	17.8%	100.0%
		エ. 環境	10.3%	60.3%	29.5%	100.0%
		オ. 言葉	30.9%	62.7%	6.4%	100.0%
		カ. 表現	13.5%	64.6%	21.9%	100.0%
		キ. 特別な配慮や支援を必要とする子ども(障害児)の保育	13.2%	47.3%	39.5%	100.0%
ク. 行事	17.7%	73.5%	8.9%	100.0%		
ケ. 延長保育・一時保育	24.6%	65.5%	10.0%	100.0%		
3.	保健活動・安全管理	24.1%	60.4%	15.5%	100.0%	
4.	保護者・地域社会・関係機関との連携	26.1%	52.1%	21.9%	100.0%	
5.	地域の子育て支援	4.9%	71.6%	23.5%	100.0%	
6.	保育園の職務・役割分担	26.1%	59.4%	14.5%	100.0%	
7.	保育士としての資質向上 (研修・研究活動)	15.1%	56.0%	28.9%	100.0%	

3. 平成 30 年度の課題

特別な支援や配慮を必要とする子どもの(障害児)保育について、知識薄弱のまま支援を行い不安も大きくなり、専門的知識を必要と強く感じた。前半は支援施設との連携が出来ず手探り状態であったが、後半には連携も出来アドバイスなど受けることが出来た。支援の研修を受講するも共有や保育に活かすことが出来ず、また、他の内外の研修でも職員の質の向上には繋がらず不満が残る。保育指針の理解も十分ではなく保育計画や指導計画に反映されず、今年度の課題として残った。